

2007.08.29版

JSCE2010策定方針(案)
及び
JSCE2010中間案

土木学会企画委員会
JSCE2010検討WG

JSCE20XXの位置づけ

- 土木学会の中期目標、中期計画を示したもので、5年ごとに見直す。
- JSCE2005では、中期目標、中期計画を達成するため、年度ごとの具体的な事業計画を立案・実行し、その結果を年2回(9月、3月)自己評価し、その評価結果を次年度の事業計画に反映するという、学会活動に対するPDCAシステムを運営。
- JSCE2000(1998.5):改革のスタート
- JSCE2005(2003.5):組織変更、PDCA運用
- JSCE2010(2008.5):学会を実質的に変える、
成果を出せる仕組み

JSCE2005の課題設定

(JSCE2005のポイント)

社会とのコミュニケーション機能の確立、及び国民的課題となっている土木技術・社会資本のあり方に関する解答機能の確立

市民の意識や社会の問題をくみ上げ、それに基づいて社会資本サービスおよび空間利用に関するソリューションを提供

会員及び学会組織内部の部門間のコミュニケーション不足

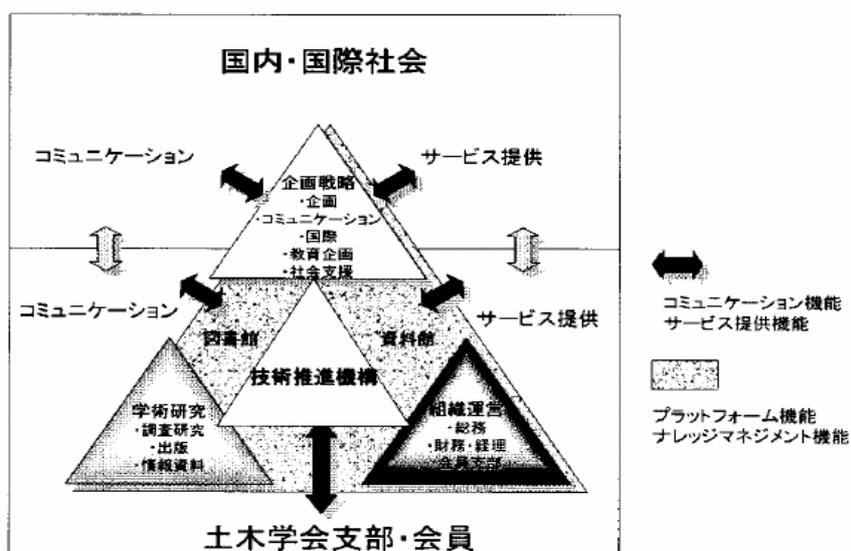
社会・学会・会員の相互連携それを支える種々の双方向コミュニケーション機能の強化

学会本部の部門の強化・改組および組織再編成

効率的・効果的な学会運営

全体の戦略目標を明確化。各部門の具体的な目標設定と評価
(マネジメントサイクル(PDCAサイクル)の導入

課題に対する行動計画



学会機能のあり方とコミュニケーションのイメージ

JSCE2010策定の基本方針

< 視点・内容等 >

JSCE2005の基本姿勢を継承

JSCE2005をベースに修正

社会からの要請等を勘案し、重点的に深化すべき計画、変更・追加すべき計画のメリハリ化

JSCE2005の中間評価、自己評価を反映

目標の重点化・絞り込み(目標が多すぎる)

JSCE2005「継続すべき事項」、「見直しすべき事項」及「新規に盛り込む事項」の峻別

各部門相互の連携 : 縦系・横系の強化

メリハリ化のため、土木を取り巻く社会、土木界・土木技術者及び土木学会の現状、土木学会の課題(役割)を改めて整理 (次項参照)

会長特別委員会の提言等を柔軟に反映

< 策定方法・プロセス >

「見える化」を意識したデータの整理と問題点の共有化

透明性のある策定プロセス

WEB、学会誌、全国大会等を活用してオープンな議論を展開

外部からの意見の反映

マスコミ、NPO等の有識者との懇談

< 広報・周知 >

会員への浸透方法、外部へのアピールも工夫(見やすく、分かり易さを意識)

英文版作成

< 説明資料 >

できるだけコンパクトに(JSCE2005は170ページの冊子)

「見える化」を意識した説明資料の工夫 p7参照

JSCE2010策定に当たっての現状認識

< 全世界 >

- ・地球温暖化による気候変動、それによる災害多発
- ・アジアを中心とした開発途上国での自然災害、水・食糧・エネルギー不足、環境破壊
- ・グローバル化による国際化進展と競争激化

< 日本 >

- ・少子高齢化社会を迎えて、災害に強い安全・安心な国土構造・社会システム、エネルギー・水・食糧の安定供給
- ・高度成長期に急激に整備されたインフラの維持管理需要増大に伴う社会資本ストック活用・長寿命化、投資の選択と集中
- ・「ものづくり重視」への回帰傾向

< 土木界・土木技術者 >

- ・国際化強化、技術による国際貢献
- ・社会資本整備に対する充足論・不要論に基づく公共投資の減少傾向
- ・公共事業システム変革の進行
土木界の反コンプライアンス行動等による社会的信頼性低下
品確法により公共調達においては、価格より技術(技術の内容や技術者資格)を重視
- ・国の技術基本計画等では社会的技術開発を重視
- ・2007年問題(技術者育成・技術継承)、学生の土木離れ

< 土木学会運営 >

- ・会員数の減少に伴う財政逼迫
- ・公益法人改革への対応

JSCE2010策定に当たっての土木学会 としての重点課題(役割)

実施中・予定の具体的活動

社会的技術(問題解決型技術)に関する調査研究と積極 的成果発表

29調査研究委員会による学際的研究(地球温暖化、社会基盤長寿命化、災
害対応技術等等)

産学協働によるエンジニアリング・デザイン教育に関する研究

社会への直接的貢献

緊急災害調査、司法支援

NPOとの連携による社会への貢献

小中学校総合学習支援など教育支援

国際化への積極的対応

土木学会の国際化、国際部門の新しいアクションプラン

アジアを中心とする国際協力・交流

国内の国際化支援

インフラ整備・維持管理への積極的な情報発信

マスコミ懇談会、論説委員会、インフラ現状調査会長特別委員会

会員の倫理向上 倫理・社会規範委員会設置

土木技術者の地位向上と社会的認知

土木学会認定技術者資格制度改善、評議会設立、プロフェッション
部門設立

学会活動の活性化・効率化

学会運営体制の見直し(公益法人改革への対応含む)

会員増強(会員制度見直し含む)

経費削減とPDCAに基づく予算の重点的・効率的投入

「見える化」を意識した説明資料の工夫

過去の推移、取り組みに関する客観的なデータや好事例等を可能な限り整理し、問題意識を共有するところから始める。

(例)

< 会員数、人材、教育に関して >

学会員の数(土木専攻学生数に占める比率も)、女性会員の数(他学会との比較)、教育に関する傾向、2007年問題のシミュレート、分野を問わず教育への働きかけの好事例 等

< 領域の拡大 >

全国大会での発表ジャンルの変化
新聞報道における土木分野の関連記事の内容と数

< コミュニケーションの活性化 >

WEBのアクセス状況、マスコミへの発信、NPOとの連携等の具体的な好事例 等

< 問題解決型への展開 >

災害等国民に理解しやすい具体的な好事例 等

出来るだけ具体的な事例で説明

文章言い回し ビジュアルな表現を工夫

JSCE2010行動戦略

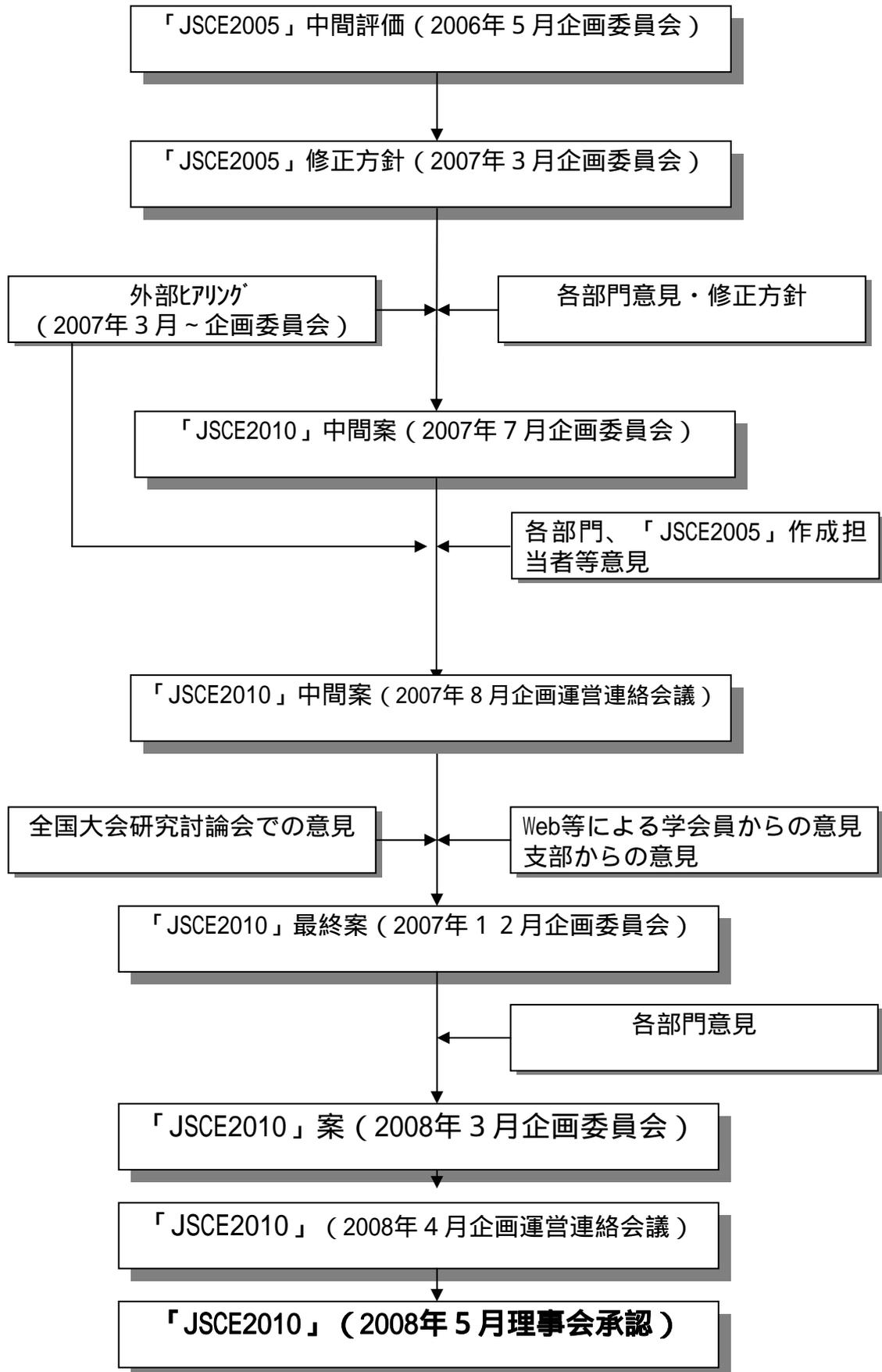
手段	対象	テーマ
学会誌、WEB (学会HP活用)	学会員 +	2010全般、個別 テーマ
全国大会での討 論	学会員	2010全般、個別 テーマ
外部有識者ヒア リング	マスコミ、NPO、 他学協会等	土木界、土木技 術者、土木学会 に対する期待等
内部ヒアリング (全般)	正副会長、理事、 各部会等	2005の見直し、 新規テーマ等

JSCE2010策定体制

「企画運営連絡会議」、「企画運営連絡会議幹事会」で調整・オーソライズ。

「企画委員会」、「JSCE 2010検討WG」により実質的な原案策定、取りまとめ作業を実施。

JSCE2010策定スケジュール



外部ヒアリング実施状況・予定

区分	対象者	所属	実施状況
マスコミ	山岡淳一郎	作家	2007/3/20
	森野美德	都市ジャーナリ	2007/7/24
NPO	佐々木久雄	NPO環境生態工学 研究所	2007/4/9
	市川智子	国際協力専門家支 援ネットワークフォー ム そしえてnet	2007/5/14
教育関係		小学校教諭 等	調整中
経済団体	中国経済連合会(平岡企画部長他)		2007/7/9
学協会	(社)日本建築学会		2007/2/19
	(社)日本機械学会		2007/2/26
	(社)地盤工学会		2007/3/13、 7/19
	(社)日本土木工業協会		2007/3/27
	(社)日本コンクリート工学協会		2007/3/28

注:上記以外も検討中

<参考:ヒアリング項目>

(マスコミ、NPO、教育関係、経済団体)

・土木技術者・土木学会が果たすべき役割・期待 等

(学協会)

・学協会の課題(会員減少、財政、組織、公益法人改革等)

・社会とのコミュニケーション、自己評価・外部評価実施状況

・土木学会への期待、要望

等

< 参考 > 外部ヒアリングでの主な意見

< 山岡淳一郎氏(作家) >

- ・10年後を見通したキャッチフレーズ(後藤新平のように)がほしい
- ・土木施設は日頃その存在を意識していない(見えない)、「見える化」が必要
- ・一般市民、特に子供達に対して社会基盤・環境問題をわかりやすく発信してほしい
- ・土木・建築・医学は「公共」であることを子供のころから共有することが重要。小学生への出前講座、建設現場見学会は有効な手段

< 佐々木久雄氏(NPO環境生態工学研究所) >

- ・「透明性」がほしい
- ・「土木」=「役所」のイメージがある。土木学会も「役所」からもう少し距離を置いてもよいのでは？
- ・「環境教育」のように「土木教育」を子供のうちからできないか
- ・NPOをもっと利用してほしい
- ・100年後に対するKEYWORDは「ゆっくり、ローテク」

< 市川智子氏(国際協力専門家支援ネットワークフォーラム「そしえてnet」/A&Mコンサルタント) >

- ・国際協力分野の人材が不足、特に土木学会のシニアの方には、シニアアドバイザーとして参加いただきたい
- ・土木学会が開催するセミナーやシンポジウムにおいて、実務にあったコンサルタント業務の計画管理等の内容(土木分野に特化した)について企画できないか？

< 中国経済連合会 >

- ・土木に対してはネガティブなイメージ
- ・「学会」は、身近ではない、「重たい」、若者を押さえ込む組織といったイメージ
- ・社会貢献している「学会」があるのか？会員サービスが主ではないか？
- ・土木が扱う領域は広いのでニーズは高いのでは(例:政策評価)
- ・国際貢献では、留学生へのフォローが重要
- ・社会的認知度を上げるためには「広告塔」が必要

JSCE2010中間案について

1. 中間案作成方法

- ・JSCE2005をベースに修正・削除・追加することとし次のステップで作業
各部門からの修正方針
に基づき企画委員会で中間案の原案を作成
に対する各部門からの修正意見
を踏まえて中間案を作成(本日8/29資料)
- ・なお、JSCE2010では、長期目標に対する長期計画は設定しないこととする

2. 中間案のポイント

先に示すように、JSCE2010策定に際しての全世界、日本、土木界・土木技術者、土木学会運営の現状を再認識し、これに対しての土木学会としての主要課題(役割)を整理。

これを踏まえて、企画委員会としての重点修正項目を次の2つとした。

「d 会員教育制度」

技術者資格制度の改善
土木関係技術者資格評議会設置
エンジニアリング・デザイン教育

「e 公正・中立な立場からの専門的知見の提供」

社会的地位向上(プロフェッション確立)
土木学会としての見解の明確化(論説委員会、倫理・社会規範委員会)
NPO,NGOとの協働
小中学生、社会人教育

学会活動の活性化・効率化については、次により対応したい。

- ・「JSCE2005」では目標として取り込んでいないが、「JSCE2010」では会員CS向上に向けて、「f 会員の維持・多様性確保」を「f 学会活動の活性化・効率化」に変更。
- ・「f 学会活動の活性化・効率化」の長期目標として、「会員の増強」、「会員制度の見直し」に加えて、「効率的な学会運営」を追加し、その中期目標を「学会財政の健全化」「学会活動をより活性化するための効果的・効率的・重点的な予算の投入」とする。主担当は「財務・経理部門」